相対論的場の量子論に基づいた

輸送係数の計算





理研仁科センター橋本数理物理学研究室

based on Yoshimasa Hidaka and Teiji Kunihiro, Phys. Rev. D 83, 076004 (2011).



保存則:

$$\partial_{\mu}T^{\mu\nu} = 0, \quad \partial_{\mu}J^{\mu} = 0$$

流体方程式は普遍的.

理論の詳細は、状態方程式: $P = P(\epsilon, n)$ 輸送係数: η, ζ, \cdots



Kubo and Tomita('54), Nakano('56), Kubo('57)



フレーバ拡散係数 $D^{ab} = \frac{1}{6} \lim_{\omega \to 0} \frac{1}{\omega} \int d^4 x e^{i\omega t} \langle [j_i^a(x), j_i^c(0)] \rangle \chi_{cb}^{-1}$

カレント演算子: $j^a_{\mu} = \bar{\psi}(x)\gamma_{\mu}t^a\psi(x)$ 感受率: $\chi_{ab} = \frac{\partial}{\partial\mu_b}\langle j^a_0 \rangle$



輸送係数についての自己無撞着な

方程式の導出, 具体例:Φ⁴模型, NJL模型

なぜダイアグラムか?

基礎理論からスタートできる. Boltzmann方程式を超えられる. 場の理論のテクニックが使える.

大きな寄与を与えるダイアグラム











Jeon(1995)



$\mathbf{H} = \mathbf{H} + - \mathbf{H} + \mathbf{H}$





ボルツマン方程式を超えて YH, Kunihiro

Eliashbergの方法

Eliashberg('62)

ダイアグラムをピンチ特異性を含むものと そうでないものに分離



両サイドがピンチ特異性につながる

片方がピンチ特異性につながる



両サイドがピンチ特異性に繋がらない

ピンチ特異性の足し上げ









ボルツマン方程式をこてて



YH, Kunihiro



相関関数は



ボルツマン方程式をこてて

高次を含むと,

YH, Kunihiro



相関関数は

 $\langle [T_{xy}(x), T_{xy}(0)] \rangle = \bullet$ +ピンチ特異性のないダイアグラム

ボルツマン方程式をこてて YH, Kunihiro

散乱振幅への補正



- 主要項 ループ補正
- 多体散乱



ボルツマン方程式をこてて YH, Kunihiro

バーテックスの補正



ボルツマン方程式をこてて YH, Kunihiro





Nambu–Jona-Lasinio模型 カイラル相転移を調べる.









ずれ粘性 in Φ⁴ 模型





Nambu-Jona-Lasinio 模型

ラグランジアン $\mathcal{L} = \overline{\psi}(i\partial \!\!\!/ - m_0)\psi + \frac{G}{2} \left[(\overline{\psi}\psi)^2 + (\overline{\psi}i\gamma_5\tau^a\psi)^2 \right]$

パラメータ $N_f = 2$ $G = 10.02 \times 10^{-6} \text{MeV}^{-2}$ $\Lambda = 650 \text{MeV}$ $m_0 = 0$ chiral limit



衝突項に対応したダイアグラム



衝突項に対応したダイアグラム







特異な振る舞いは見られない.



フレーバ拡散係数は発散する。 Ohnishi, Fukushima, Ohta(2004) $D \rightarrow \infty$ as $T \rightarrow T_c$ ミクロ v.s. マクロ π soft ^q hard π Pion Quarks $\sim N_c^0$ $\sim N_c^2$

ソフトなパイオン







Eliashbergの方法をQFTに ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

線形化Boltzmann方程式

高次項: スペクトルの変化, バーテックス, 多体散乱効果

まとめ

Φ4模型とNJL模型に適用

